



## ペットを介してかかる病気について

動物と人が同じ病原体（細菌・ウイルス・原虫・寄生虫・真菌・リケッチア・クラミジア）によって感染する病気を“人畜共通感染症”と呼び、その種類は、100以上もあるといわれています。その半分以上は、寄生虫が原因です。

人畜共通感染症の問題は、感染する経路・様式が一定でないこととペットを飼育する方法や家族内での位置づけが変わってきていることが挙げられます。

感染経路に関しては、咬まれた傷や搔かれた傷から体内に入り込むもの、ペットの排泄物で汚染された水や食物とともに摂取されるもの、呼吸によって肺などに侵入するもの、ダニ・ノミやカなどの節足動物が仲立ちして感染するものなどがあります。（右の表を参考）

中でも、人畜共通寄生虫の感染の場合、もともと、その原因となる寄生虫は“人の寄生虫”ではなく“動物の寄生虫”であり、人の体内では成虫にならず幼虫のままで人の体内をぐるぐるまわって移動するため、成虫特有の症状がでないことから、幼虫を体内から取り出すか、特殊な免疫反応でしか診断できないという問題があります。その上、イヌ・ネコの寄生虫なので、イヌ・ネコにはあまり悪さをしませんが、人に感染すると、眼や脳に入って、重篤な症状を示すこともあります。成虫に効く薬はたくさんありますが、幼虫に効く薬はあまりないことも問題です。

かつては、家の中で同居していたのはネコだけでしたが、現在では、イヌ・小鳥・ネズミ・ヘビなど、さまざまな動物が寝食を共にするようになり、親密なスキンシップが図られるようになりました。以前のように寄生虫に関心を持たなくなっていることも、人畜共通感染症が増えてきている要因と考えられます。

## 予防について

まず、飼っているペットの病気についての知識を知っておくことが大切です。次いでペットの清潔さを心がけ、糞便の処理をきちんとすること、定期的に健康診断を受けさせることも大切ですが、最も重要なことは、ペットをあくまでも人間とは異なる一つの独立した生き物として扱うことです。

イヌ・ネコ寄生虫症は、特にネコが夜間に砂場で排泄することが多いことから、砂場で遊んだ際の手洗いの不備によって感染する可能性が高く、遊んだあとの手洗いだけでなく、砂場の管理も重要な予防対策となります。

ここがポイントです！



ペットによる感染症は、このように恐ろしい病気がいくつかありますが、人に感染する確率はそれほど高いものではありません。むしろ、ペットはこどもの感情を豊かにする作用やストレスを除くことなど、人に良いこともたくさんしていることを忘れてはいけません。むやみにペットによる病気を恐れて「ペットは飼わないようにしよう」と短絡的に考えず、ペットの病気を理解したうえで適切な飼い方をすることが大切です。

## 動物からの感染経路

病名	動物	感染方法	症状
ネコひっかき病	ネコ	ひっかき傷、咬傷、ノミによる刺傷	発熱、リンパ節の腫れ、髄膜炎、脳症
トキソプラズマ	ネコ	糞で汚れた砂などから虫卵を経口で。体毛に付着した虫卵をゴミとともに経口で。	死産、流産、リンパ節炎、網膜・脈絡炎
イヌ・ネコ蛔虫症(トキソカラ症)	イヌ・ネコ	同上	肝腫脹、発熱、視力低下、飛蚊症、網膜芽細胞腫
皮膚糸状菌症	イヌ・ネコ	直接の接触	発疹、皮膚炎
エルシニア症	イヌ・ネコ・ネズミ	排泄物の汚染物から経口	食中毒、胃腸炎
カンピロクター症	イヌ・ネコ・トリ	排泄物の汚染物から経口	食中毒、胃腸炎
オウム病	インコ・文鳥などの小鳥	乾燥した糞の吸入・餌の口うつし	発熱、咳、急性肺炎
クリプトコッカス症	ハト・小鳥	乾燥した糞の吸入	髄膜炎・肺炎
サルモネラ症	爬虫類・イヌ・ネコ	排泄物の汚染物から経口	下痢・食中毒
爪実条虫症(ツメサナダムシショウ)	イヌ・ネコ・ノミ	ノミ成虫の誤飲か潰した手から経口	腹痛・神経症状
ノミ症	ネコ・イヌ	接触感染	丘疹、痒み

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

アドレス <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>